

園芸学研究論文原稿作成要領（平成 24 年 10 月改定）

1. 投稿は J-stage によるオンライン投稿とする (<http://www.editorialmanager.com/hrj/>)。初めての投稿の際には、まず、ログイン画面において、ユーザー登録を必要とする（詳しくは「著者・ユーザー登録マニュアル」を参照すること。ログイン画面でダウンロードが可能である）。

初回投稿時には、論文種別、表題、著者（投稿責任者）情報、抄録（和文摘要）、キーワード（論文で使用したもの）、分野（希望審査領域）、追加投稿者情報、本文・図表ファイルが必要なため、あらかじめ準備する。これらの登録、アップロード方法は、「著者・ユーザー登録マニュアル」に詳述されている。

本文、表、図、写真をそれぞれ別ファイルで作成し、J-stage にてそれぞれこの順にアップロードする。アップロード可能なファイル形式は、MS Word, PDF, MS Excel, MS Power Point, 各種画像（JPEG, PNG など）である。MS Office はバージョンを問わず使用でき、また、Widows 版および Macintosh 版ともに使用できる。一太郎および花子ファイルは使用できない。

また、初回投稿時には、「初回投稿時チェックシート」(<http://www.jshs.jp/uploads/photos/638.doc>) をダウンロードし、点検後のシートを図（写真）の後にアップロードする。

2. 原稿の用語は現代かなづかい平仮名混じりの口語体とし、学術用語以外は常用漢字を用いる。学術用語の表記は原則として園芸学用語集・作物名編（園芸学会編）に基づくものとし、使用してよい漢字の範囲は編集委員会で別に定める。なお、ローマ字のつづり方は原則としてヘボン式に従う。ただし、固有名詞（命名者がローマ字表記を公表している品種名など）はその限りではない。原稿で正しく表示できない旧字体は採録決定後の校正時に申し出ること。

3. 論文の内容区分および配列は次のとおりとする。

1) 表題, 2) 著者名, 3) 所属機関名および所在地, 4) 以上 1) ~3) の英文訳, 5) Abstract (英文), 6) Key Word(s) (英文), 7) キーワード (和文), 8) 本文 (原則として緒言, 材料および方法, 結果, 考察の順とする。ただし, 結果と考察を一括して結果および考察としてもよい), 9) 摘要, 10) 引用文献, 11) 表, 図, 写真。

謝辞を入れる場合は摘要の最後に続けて記載する。なお, 表, 図, 写真は, 印刷時に本文指定の場所に挿入されるが, 投稿に際してはこの順序にそれぞれを番号順にまとめ, 引用文献の次に置く。

4. 表紙の書き方は次のとおりとする。

1) 表題, 著者名, 所属機関名, その所在地は英文訳を付けて原稿の 1 枚目に記す。表題は論文内容を適切かつ

簡潔に示すものとし, 単報形式とすることが望ましい。受付年月日, 受理年月日のほか, 連報の一部であること, 研究助成金の出所, 業績番号, 大会発表年度などは脚注として記す。

2) 著者が複数で同一機関に所属する場合は著者名を連記し, 次欄に所属機関名とその所在地を記す。著者が異なる機関に所属する場合は, 著者名を連記し, その右肩に肩付き数字を付し, 次欄に数字ごとに所属機関名とその所在地を記す。投稿責任者氏名の右肩には*を付して, 脚注に「*Corresponding author. E-mail: xxxxx@yyyy.z.z.jp」と記す。なお, 著者に所属機関の変更が生じた場合は著者名の右肩にアルファベットの小文字を正順 (a, b, c...) に付し, 脚注にその旨を記す (投稿責任者である場合などを除き, 原則として所在地は記述しない)。

3) 上記和文記載に続けて英訳を付記する。表題は冠詞, 前置詞, 接続詞を除くすべての語の頭文字を大文字とする。著者名は, 名, 姓の順に書く。所属機関名とその所在地はイタリック表記とし, 所在地は必要最低限の mailing address とする。

5. Abstract は原稿の第 2 ページより始め, 1 行 65 字 20 行を原則としてタイプする。その長さは原則として 200 ワード程度とする。1 段落の文章とし, 箇条書きにしない。Abstract に続けて, 表題にある語以外から英文の Key Word(s) および日本語のキーワードを加え (共に 5 つ以下), いずれもアルファベット順 (日本語はヘボン式ローマ字が示す順) に並べる。

例 Key Words: abscisic acid, decapitation, fatty acids, IAA, sterols

キーワード: アブシジン酸, IAA, 脂肪酸, ステロール, 摘心

6. 本文の主見出し (緒言, 材料および方法など) は行の中央に置き, ゴシックとする。副見出しもゴシックとして左端から記す, 本文中において項目細目別記号を用いるときは, 1., 2., 3., ..., 1), 2), 3) ..., (1), (2), (3) ..., i), ii), iii) ... の順とする。

7. 句読点は「,」, 「.」とする。また句読点, 括弧, ハイフンなどは全角として書き, 数字は半角とする。数字と単位の間には半角スペースを挿入する。ただし, °, % の場合に限り, スペースを挿入しない。

例 10 cm (○) / 10 cm (×), 25% (○) / 25% (×), 30°C (○) / 30 °C (×)

8. 数字は原則としてアラビア数字を用いるが、熟語として使われる数字は漢字とする。

例：二，三の例，一部分，一度

9. 摘要には論文の要点を簡明に記述する。1段落の文章とし、箇条書きにしない。

10. 文献を引用する場合、著者の姓と発行年を括弧で囲んで示す。なお、著者名が2名までの場合は姓を列記し（引用する文献が外国語で記述されたものであっても、「・」で区切る）、3名以上の場合は筆頭著者らとする。また、著者名（欧字）はローマン体とする。さらに、同一箇所に複数の文献を引用する場合は、筆頭者のアルファベット順に並べる。

例（Kawabata・Yazawa, 2000; Maruo ら, 1999; 西沢・高樹, 2004, 2005; 高村ら, 1998a, b)

11. 一般化している外国語はなるべく片仮名（+漢字）で書く。物質名は原則としてその名称を略さずに片仮名（+漢字）で書く。ただし、複雑な有機化合物など化学式、英名を用いた方が分かりやすいときは、その限りでない。有機化合物名、酵素名、標準の実験方法などには略語、短縮形を用いることができる。その場合、論文中で最初に出る箇所でその完全な名称を記し、以下で用いる短縮形を括弧に入れて示す。

12. 商標名、商品名は原則として使用せず、特に表題での使用は認められない。やむを得ず使用する場合は、その有効成分などを括弧書きにより明示する。欧字の場合、最初の語の頭文字を大文字とする。

13. 肥料（商品）名については前項に準じる。

肥料成分、濃度、施肥量、作物の吸収量、含有率などの表記に当たっては、単体表示か、酸化物表示かを明示にする。

14. 動、植物名は科、属名を含めて一般化しているものは和名を用いて片仮名書きとする。学名を用いる場合はイタリック表示とし、命名者名を付する。ただし、命名者名は最初に出した後は省略してよい。学名および一般名は原則として園芸学用語集・作物名編（園芸学会編）に従う。

品種名は‘ ’（single quotation mark）で囲むが、学名に加えて品種……とする場合や図表本体中ではその限りではない。

欧字の場合は、頭文字を大文字とする。

例 *Diospyros kaki* Thunb. ‘Fuyu’, カキ ‘富有’, カキ品種富有

15. 計量単位はメートル法とし、国際単位系（SI units）に従うことが望ましい。なお、記号の後には略記を表すピリオドを付けない。

単位の例

長さ	m, km, dm, cm, mm, μm , nm
面積	m^2 , km^2 , dm^2 , cm^2 , mm^2 , ha, a,
体積	m^3 , cm^3 , mm^3 , L (1は不可), mL, μL , nL, pL
時間	s, min, h, day(s), week(s), month(s), year(s)
回転・振動数	Hz, rpm
質量	kg, t, g, mg, μg , ng, pg
圧力	Pa, $\text{N}\cdot\text{m}^{-2}$, bar, mbar, atm (気圧), mmHg (血圧の場合のみ), Torr (生体内の圧力のみ), pF
温度	K, $^{\circ}\text{C}$
熱量	J, (k)cal (栄養・代謝に関わる場合のみ)
電気関係	A, mA; V, mV; Ω (オーム, 抵抗); W, kW, mW
光関係	cd; $\mu\text{mol}\cdot\text{m}^{-2}\cdot\text{s}^{-1}$; lx, klx; lm
物質質量, 濃度	mol, mmol; $\text{mol}\cdot\text{L}^{-1}=\text{M}$, mM, μM ; N (規定)
糖度 (屈折計による)	$^{\circ}\text{Brix}$ (図表中), $^{\circ}$ (文章中)
放射能	Bq, Ci, mCi; Gy, rad, krad; R, kR, dpm
その他	$\times\text{g}$, pH, cpm, %, ppm, ppb **本/株, **個/鉢

16. **ゴシック体**は主見出しと副見出しに、**イタリック体**は著者の所属機関とその所在地（英文のみ）、動・植物の学名などに用いる。

文章の引用や特殊な意味をもつ字句には double quotation mark を付ける。

17. 引用文献の記載は次のとおりとする。

1) 引用文献として列記するものは引用した論文に限る。記載順序は2番目以降の著者名も含めて全てアルファベット順とし、著者名が全て同一の場合は発表年順とする。題名は省略せずに記す。

同一著者名、同一雑誌名が続いた場合、— —, Ibid, ibid などと省略しないで書く。

2) 私信や未発表のデータを引用する場合には、引用文献として列記することなく、本文中の引用箇所にそれぞれ（私信）、（未発表）などと記す。ただし、投稿して受理されたものは印刷中（In press）として列記する。編集委員会は、投稿者に In press の文献の提出を求めることがある。

3) 雑誌名などの短縮形は当該誌の指示に従う。

欧字単行本の表題は、固有名詞を除いて最初の語の頭文字のみ大文字とし、他は小文字とする。各巻を通じて頁数を付けてある場合は、巻数のみを記し、号数を記入しない。

4) 引用文献リスト中の英数字の後に付けるコンマ、ピリオド、セミコロン、コロンなど(, . ; :) は半角文字とし、その後に必ず半角スペースを挿入する。引用雑誌は原則短縮形とし、「J. Japan. Soc. Hort. Sci.」, 「園学研.」のように省略を示すピリオドを挿入する。短縮形でない雑誌の場合、欧文誌は後ろに半角スペースを挿入し、和文誌は「農業技術.」のようにピリオドを挿入する。

5) 特許、品種登録も引用文献とできる。

6) オンライン書誌の引用も認めるが、紙媒体の引用が可能な場合は、その引用は認めない。

7) オンライン書誌の引用に際しては DOI (デジタルオブジェクト識別子), ISSN (国際標準逐次刊行物番号) または ISBN (国際標準図書番号) のいずれかを記載する。その際、DOI を優先し、DOI が無い場合のみ ISSN および ISBN を記載する。

8) DOI, ISSN および ISBN の付与されていないオンライン書誌・資料は、信頼のおける機関により公開され、その内容が十分な価値を持つ場合にのみ、編集委員会の許可のもと引用できる。

9) 記載例

雑誌:

西沢 隆・伊藤彩香・伊藤政憲. 2004. メロン‘プリンス’と比較した山形県在来マクワウリ‘早田瓜’の生長, 形態および生理的特性. 園学研. 3: 399-403.

杉浦俊彦. 2006. 地球温暖化が果樹栽培に与える影響の現状と対策. 農業技術. 61: 107-112.

単行本:

藤巻 宏. 2002. 生物統計解析と実験計画. p. 86-98. 養賢堂. 東京.

単行本訳本:

ハンス-ワルター ヘルト. 2000. 植物生化学(金井龍二訳). p. 273-279. シュプリンガー・フェアラーク東京. 東京.

編書の中の章:

稲葉昭次. 2003. 野菜のポストハーベスト. p. 152-190. 矢澤 進編著. 図説野菜新書. 朝倉書店. 東京.

学位論文:

早見 功. 2004. リョクトウ芽生えの胚軸細胞壁多糖に関する研究. 岩手大学大学院連合農学

研究科学位論文.

抄録:

栗山隆明・吉田 守. 1975. 温州ミカンの品質に関する研究. 第13報. 開花時期と温州ミカンの品質について. 園学要旨. 昭50春: 480-481.

山下英希・高村武二郎. 2007. シクラメン野生種の核DNA量の種間差異. 園学研. 6(別1): 460.

特許:

千葉直樹・足立陽子・中村茂雄・鹿野 弘. 2006. イチゴの四季成り性を検定するDNAマーカー. 特許公開 2006-42622.

品種登録:

中條忠久・掘込 充. 1998. おおつぶ星. 品種登録 6926.

オンライン書誌:

南 泰明. 2006. シクラメン開花に及ぼす植物ホルモンの効果. 開花調節. 4: 12-16. DOI 10.1012/s011200550058. <http://www.***.**/>.

小川健作. 2006. 園芸学の基礎. p. 25-35. オンライン出版社. 東京. ISBN5-1256-9553. <http://www.***.**/>.

Periodicals

Lee, O. N., K. Nemoto and N. Sugiyama. 2005. Histone H4 gene expression in shoot apices associated with floral initiation in lettuce. J. Japan. Soc. Hort. Sci. 74: 121-126.

Books

Hancock, J. F. 1999. Strawberries. p. 47-66. CABI Publishing, New York.

Book chapters ないし multi-author books

Soeranto, H., T. M. Nakanishi and M. T. Razzak. 2003. Mutation breeding in sorghum in Indonesia. p. 159-165. In: Y. Hayashi, S. Manuwoto and S. Hartono (eds.). Sustainable agriculture in rural Indonesia. Gadjah Mada Univ. Press, Yogyakarta, Indonesia.

Thesis

Terasaki, S. 2002. Non-destructive measurement of fruit visco-elastic property using a laser Doppler method. Ph. D. Thesis. Hiroshima Univ. Hiroshima.

Bulletins

Rollins, H. A., F. S. Howlett and F. H. Emmert. 1962. Factors affecting apple hardness

and methods of measuring resistance of tissue to low temperature injury. Ohio Agr. Expt. Sta. Res. Bul. 901.

Abstracts

Izumi, H., M. Tachibana, C. Yamamoto and M. Nagano. 2004. Physiological and microbiological characteristics of fresh-cut cucumber stored in CA/MAP in relation to high CO₂ atmosphere. HortScience 39: 805 (Abst.).

Patent

Krasutsky, P. A. and V. V. Nesterenko. 2007. Process for extracting compounds from plants. United States Patent 7198808.

Okudai, N., R. Matsumoto and T. Takahara. 1994. Tsunokaori. United States Patent PP8559.

Online journal/document

Philippe Vain. 2007. Thirty years of plant transformation technology development. 5: 221-229. Plant Biotech. J. DOI: 10.1111/j.1467-7652.2006.00225. <http://www.***.**/>.

Bommarius, A. S. and B. R. Riebel. 2005. Biocatalysis. P. 10-25. Wiley Interscience, New York. DOI: 10.1002/3527602364. <http://www.***.**/>.

18. 投稿原稿本文のフォーマットは次のとおりとする。

- 1) A4 サイズ, 横 25 字, 縦 20 行とし, 余白は左端 30mm, 右端 20mm, 上端 50mm, 下端 40mm とする. 左余白部に本文の左端の文字から 2 字分あけて 5 行ごとに行数を abstract 記載ページ以降の全ページ通し番号で示す.
- 2) 用紙の右肩上または下端部中央に頁数を明記する.

19. 表, 図, 写真の作成は次のとおりとする。

- 1) 表, 図 (写真) は A4 サイズで作成する.
表題の説明は日本文または英文とする. 表, 図 (写真) にはそれぞれ第 1 表 (Table 1.), 第 1 図 (Fig. 1.) というように一連の番号を付ける. ただし, 本文中に引用する場合には, 英文であっても第 1 図, 第 1 表とし, Fig. 1, Table 1 とはしない. 表題はそれぞれ表・図・写真の内容を十分に表すものとする. また, 日本語で記載する場合は, 表題, 説明, 見出しなどの最後に句点 (.) を付けない.
- 2) 表は MS Excel を使用して作成し, 1 sheet につき 1 枚の表とする (表が 2 枚以上ある場合は, sheet を別にし, 表番号の昇順に並べる). 表は sheet の印刷可能範囲内に作成すること (J-stage において PDF ファイルが作成される時に表が分割されるため).
表の表題は表本体の上側に置く. 表中の縦けい線は原

則として使用せず, 横けい線も極力少なくする. 表の最上線は=, その他の線は-とする. 縦, 横欄の見出しは脚注を利用して明白な表現とする.

脚注を示すにはアルファベットを逆順に (z, y, x, w, v, ...) 小文字で肩付けする. 統計的有意差の存在を示すにはアルファベットを正順に (a, b, c, d, e...) 用い, その旨を脚注に示す. また, 用いた検定法を本文か脚注に示す. アステリスク (*5%, **1%) の使用は可.

3) 図 (写真) は, 原則として著者が作成して提出したものを版下とするので, A4 サイズに刷り上がりの 2 倍程度の大きさで完成させること. MS Word, MS Excel, MS Power Point で作成する場合, 1 ページ (sheet) につき 1 枚の図 (写真) とし, 2 枚以上ある場合はページ (sheet) を別にし, 図番号の昇順に並べる. 図 (写真) は印刷可能範囲内のページの中央に配置する (J-stage において PDF ファイル作成される時に, ページの端が切れることがあるため). カラー印刷を希望しない場合は, 投稿時から白黒で作成すること. 図表中の文字 (数字および○, □など一般的記号を含む) を記入する際には, 刷り上がり時に十分に読み取れる大きさで仕上げる. 図 (写真) の表題および説明文はそれらの下側に置く.

4) 投稿に際しては表, 図, 写真の順にまとめ, 本文の後に置く.

20. 審査合格後の採択原稿

- 1) 図表の表題および説明文については, 図表の番号順にまとめて別紙に書き, 本文の最後に置く.
- 2) 字体の指定はゴシック体____, イタリック体__, のように該当語の下に赤線で入れる.
- 3) 誤りやすい肩付けや下付けの文字は赤字で指示する.
- 4) 表, 図にはそれぞれ右上角に筆頭著者名と表, 図の番号を記入する.
- 5) 本文中での表, 図, 写真の挿入箇所は, 原稿の右欄外に赤字の矢印記号と図表番号で指定する.

21. 最終原稿

- 1) 最終原稿は, J-stage にて WEB 上で提出する. 本文は MS Word, 表は MS Excel, 図 (写真) は MS Word, MS Excel, MS Power Point または各種画像ファイル (JPEG, PNG など) としてアップロードする. 一太郎や花子ファイルは J-stage ではアップロードできない. なお, 表は文字入力データとし, 画像として貼り付けない.
- 2) 図 (写真) は写真製版するので, 鮮明に印刷できることを原則とする. 図 (写真) の高解像度が必要な場合は, 原本の郵送を受け付ける.
- 3) 原稿作成要領は必要に応じて改定される場合があるので, 最新号および本学会のホームページ (<http://www.jshs.jp/>) を参照すること.